



大和ハウスは各地に水力や地熱発電所をつくる(東芝が設備を納入した水力発電所の例)

大和ハウス

水力・地熱発電に進出

東芝と組む 住宅向け割安供給

大和ハウス工業は東芝と組み、水力、地熱発電事業に進出する。岐阜県内で水力発電所を設置するなど、2017年度までに計2万キロワット規模にする計画。太陽光発電に加えて安定稼働する自前電源を増やし、電力小売事業に活用する。16年に家庭向け電力小売りが自由化されるのを機に、大和ハウスの住宅購入者に割安に供給する計画だ。

大和ハウスは現在、メガソーラー(大規模太陽光発電所)や風力発電所を運営し、子会社を通じて電力を一般企業に販売している。発電能力は計約18万キロワットあるが、発電量は天候に大きく左右される。稼働率が高い水力、地熱発電を手掛けるほか、電力の外部調達も増やし、17年度には電力事業の売上高を現在の5倍の500億円に増やす。

太陽光以外の再生エネ発電に取り組む企業が増えている

主なプロジェクト	場所	出力(キロワット)	稼働時期
▼水力			
大和ハウス工業など	岐阜県	2000	2017年
丸紅	長野県など	約35000	稼働中
▼地熱			
オリックス	北海道など	各約2000	未定
三菱マテリアルなど	秋田県	42000	2019年5月
▼バイオマス			
三井物産、住友林業など	北海道	58000	2016年12月
三井造船	北海道	1800	2015年7月
▼風力			
ソフトバンク、三井物産など	島根県	約48000	2015年度中

第1弾として岐阜県の神通川の支流2カ所に水

力発電設備を設置する。東芝の子会社や、地元の建設会社と新会社「DTS飛騨水力発電」を設立。大和ハウスが約4割出資し筆頭株主となった。総事業費は約28億円。発電能力は2千キロワットで17年に稼働する。発生した電気は大和ハウスが全て買い

取って販売する。大和ハウスはグループ会社が運営するリゾートホテルの大半に温泉設備があることから、東芝と地熱発電所も共同で建設していく。バイオマス(生物資源)発電についても今後検討する。

地熱発電は建設に時間がかかり、水利権や温泉資源を巡る地元との利害調整が難航するケースもある。大和ハウスと東芝は発電能力を環境影響評価が不要な中小規模に抑え

るとともに、地元企業の参画を得て展開する。大和ハウスは電力小売りの完全自由化後に、戸建て住宅向けに電力を販売する方針を打ち出すなど、電力事業参入の動きが広がっている。